



フォントワークス
昭和書体
筆文字
見本帖



01 • Kaisho

楷

書

昭和楷書 *Showa Kaisho*

太楷書 *Futo Kaisho*

朱雀 *Suzaku*

昇龍 *Shoryu*

天龍 *Tenryu*

新太楷書 *Shin Futo Kaisho*

榮泉楷書 *Eisen Kaisho*

極太楷書 *Gokuhuto Kaisho*

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わぬをん

薔薇

パツと
その本に夢中になり、
信賴し、同化し、共鳴し、
それに生活を
くつつけてみるのだ。

茶

の

アイウエオ
カキクケコ
サシスセン
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる蒨草は、
牧場か湖水か。

花

あき、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真つ暗い中に、じつと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、がらつと襪をあげられ、日の光がどつと来て、でこちゃんに、「見つけた！」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もつとやりきれない。

眼鏡は、お化け。

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

珊瑚礁 扇

美しさに、内容なんてあってたまるものか。純粹の美しさは、いつも無意味で、無道德だ。さまっている。だから、私は、ロココが好きだ。

幸福は一夜おくれて来る。

装飾様式

碗

子

キャラメル

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わぬをん

私は
悲しい癖で、
顔を両手で
びったり覆って
いなければ、
眠れない。

朝は

牧場

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じっと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、がらっと襦をあげられ、日の光がどっと来て、でこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな闇の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよっと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

アイウエオ
カキクケコ
サシスセン
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

健康だ

顔から生れる、いろいろの情緒

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNopqRSTUVWXYZ
0123456789

なんて、

七不田

あれは嘘。

朝は灰色。

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思うほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。さようは頬紅も、つけないのに、こんなに頬がぱつと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

結局は、私ひまなもんだから、生活の苦勞がないもんだから、毎日、微面、幾千の見たたり聞いたり、感受性の処理が出来なくなつて、ポカポカしているうちに、そいつらが、お化けみたいな顔になつてポカポカ浮いて来るのではないのかしら。

豆の葉

私は、王子さまのいないシンデレラ姫。

風呂からあがって、なんだか今夜は、星が気にかかつて、庭に出てみる。星が、降るようだ。ああ、もう夏が近い。蛙があちこちで鳴いている。妻が、ざわざわいつている。何回、振り仰いでみても、星がたくさん光っている。

湖水

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセン
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

純粋の山

美しさ

空には星が
キラキラ。
なんど
見直しても、
キラキラ。

心の底まで透明に
なってしまうと、
崇高なニヒル、
とでもいったような
工合いになった。

因心

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思うほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさや、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。

アンブレラ

眠りに落ちるとききの気持って、へんなものだ。

生活様式

山形の生活、汽車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを持って汽車に乗りたくなってしまふ。扇子をひらく感じて、よいもの。ばらばら骨がほどけていって、急にふわっと軽くなる。クルクルもてあそんでいたら、お母さん帰っていらした。御機嫌がよい。

鳥

望遠鏡

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真つ暗い中に、
じつと、しゃがんで隠れていて、突然でこちゃんに、
がらつと襪をあげられ、日の光がどつと来て、
でこちゃんに、「見つけた！」と大声で言われて、
まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、
胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよつと、
てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、
あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
なんだが、もつとやりきれない。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わみゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤスヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNopqRSTUVWXYZ
0123456789

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。
かくれんほのとき、押入れの真っ暗い中に、
じっと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、
がらっと襖をあけられ、日の光がとっと来て、
でこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、
まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、
胸がときどきして、着物のまえを合せたりして、
ちょっと、てれくさく、押入れから出て来て、
急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、
あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

私は
悲しい癖で、
顔を両手で
ぴったり覆って
いなければ、
眠れない。

酸欠水

薔薇のワルツ

透明

あたし、東京の、
どこにいますか、
ごぞんじですか?

眠りに落ちるときの気持って、へんなものだ。
射か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、
なんだか重い、鉛みたいな力が、糸でもって私の頭を、
ぐっとひいて、私かとうとう眠りかけると、
また、ちょっと糸をゆるめる。すると、私は、
はっと気を取り直す。また、ぐっと引く。とうとう眠る。
また、ちょっと糸を放す。そんなことを三度か、
四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうっと
大きく引いて、こんどは朝まで。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑを
ん

純粹
の
自己犠牲
の
美しさ
も
知っていた

下

山形の生活、汽車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを持って汽車に乗りたくなくなってしまふ。扇子をひらく感じて、よいもの。ばらばら骨がほどけていって、急にふわっと軽くなる。クルクルもてあそんでいたら、お母さん帰っていた。御機嫌がよい。

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

眠りに落ちるときの気持って、へんなものだ。

私は悲しい癖で、
顔を両手で
びったり覆って
いなければ、
眠れない。

駄

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

心の底まで透明になってしまっ、崇高なニヒル、とでもいったような工合になった。

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じっと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、からっと襖をあげられ、日の光がどっと来て、でこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちょっと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

屋

パセリ の最善 の場所

読む本がなくなって、類似する本を手本がなんにも見つからなくなった時には、私は、いったいどうするだろう。手も足も出ない、萎縮の態で、むやみに鼻をかんではかりいるかも知れない。何しろ電車の中で、毎日こんなふうにふるふる震えているばかりでは、だめだからに、厭な温かさが残って、やりきれない。

文字で彩るコトバと想い

あ い う え お
か き く け こ
さ し す そ と
た ち つ て の
な に ぬ ね ほ
は ひ ふ へ も
ま み む め
や ゆ よ
ら り れ ろ
わ ゐ を
ん

あさ、眼をさますとまの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真つ暗い中に、
じつと、しゃがんで隠れていて、
突然、てこちゃんに、
がらつと襦をあげられ
日の光がどつと来て、
てこちゃんに、「見つけた！」と大声で言われて、
まふしと、それから、へんな間の番で、
それから、胸がどきどきして、
着物のまを合せたりして、
ちまつと、てれとて、
押入れから出て来て、
急にむかむか腹立たしく、あの感じ、
いやちがう、あの感じてもない、
なんだか、もつとやりきれない。

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる菘蓐草は、
牧場か湖水か。

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxy
ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ
0123456789

ほんとうに私は、どれが本当の自分かわからない。読む本がなくなって、真似するお手本が
なんにも見つからなくなった時には、私は、いったいどうするだろう。手も足も出ない、萎縮の
態で、むやみに鼻をかんでばかりいるかも知れない。何しろ電車の中で、毎日こんなふうら
考えているばかりでは、だめた。からだに、服を温かさが残って、やりきれない。

心の底まで透明に
なってしまって、
崇高な二ヒル、
とでもいったような
工合いになった。

美

茶

碗

もう、もう、なんでも、どうでも、よくなって来る。
ついには、ええっ！ と、やけそになって、味でも体裁でも、めちやめちやに、
投げとばして、ぼたぼたやっちゃって、じつに不機嫌な顔して、お客に差し出す。

ウクク焼し
山形の生活、汽車の中、浴衣、西瓜、
川、蝉、風鈴。急に、これを持って
汽車に乗りたくなってしまふ。扇子
をひらく感じって、よいもの。ばら
ばら骨がほどけていって、急にふわ
っと軽くなる。クルクルもてあそん
でいたら、お母さん帰っていらした。
御機嫌がよい。

お鍋

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

紫のすみれ

あたし、東京の、
どこにいるか、
ごぞんじですか？

透明

山形の生活、汽車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを持って汽車に乗りたくなってしまう。扇子をひらく感じて、よいもの。ばらばら骨がほけていって、急にふわっと軽くなる。クルクルもてあそんでいたら、お母さん帰っていた。御機嫌がよい。

王子さまのいないシンデレラ姫。
あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じっと、しゃがんで隠れていて、突然、てこちゃんに、からっと襖をあけられ、日の光がどつと来て、てこちゃんに、「見つけた！」と大声で言われて、まぶしさに、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もつとやりきれない。

青灰の朝は
色

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思うほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。

菜菔 金魚

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑをん

明日もまた、
同じ日が来るのだろう。
幸福は一生、来ないのだ。

雑

薔薇のワルツ

豆の葉

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

もう、もう、なんでも、どうでも、よくなって来る。ついには、ええっ！
と、やけくそになって、味でも体裁でも、めちやめちやに、投げとばして、
ばたばたやっつけてしまっ、じつに不機嫌な顔して、お客に差し出す。

朝は シンデレラ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNPOQRSTUVWXYZ
0123456789

健康だ

私は悲しい癖で、
顔を両手で
ぴったたり覆って
いなければ、
眠れない。

なんて、

ステージ

あれは嘘。

朝は灰色。

誌

眠りに落ちるときこの気持ちで、
へんなものだ。射かろなきか、
くいくい釣糸をひっぱるように、
なんだか重い、鉛みたいな力が、
糸でもって私の頭を、くつとひいて、
私がとうとう眠りかけると、
また、ちよつと糸をゆるめる。
すると、私は、はつと息を取り直す。
また、くつと引く。とうとう眠る。
また、ちよつと糸を放す。
そんなことを三度か、
四度くりかえして、
それから、はじめて、くろつと
大きく引いて、こんどは朝まで。

無邪気

02 • Gyosho

行

昭和行書 *Shōwa Gyosho*

風神 *Fūjin*

雷神 *Raijin*

龍神改 *Ryūjinkai*

花神 *Kashin*

清龍 *Seiryū*

文龍 *Bunryū*

如來／如來夾 *Nyorai / Nyorai Sou*

あけぼの *Akebano*

銀龍 *Ginryū*

翁 *Ōjina*

華墨 *Kaboku*

心龍 *Shinryū*

玄武 *Ganbu*

太行書 *Fūto Gyosho*

新雲龍／雲龍夾 *Shin Unryū / Unryū Sou*

般若 *Hannya*

滝改 *Takikai*

黒龍／黒龍夾 *Kokuryū / Kokuryū Sou*

栄泉楷行書 *Eisen Kaigyosho*

白虎／白虎夾 *Byakko / Byakko Sou*

飛龍 *Hiryū*

仙人 *Sennin*

天空 *Tenku*

寿鶴 *Jūhaku*

草龍 *Souryū*

泥雉 *Dorobime*

書

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

電

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる菝茀草は、
牧場か湖水か。

薔薇のワルツ

眠りに落ちるとまの気持って、
へんなものだ。謝か、うなぎか、
ぐいぐい釣糸をひっぱるように、
なんだが重い、鉛みたいなのが、
糸でもって私の顔を、ぐつとひいて、
私かとうとう眠りかけると、
また、ちよつと糸をゆるめる。
また、ちよつと糸をゆるめる。
すると、私は、はつと息を取り直す。
また、ぐつと引く。とうとう眠る。
また、ちよつと糸を放す。
そんなことを三度か、
四度くりかえして、それから、
はじめて、ぐろつと大きく引いて、
こんどは朝まで。

あさ、眼をさますとまの気持
は、面白い。かくれんぼのとき、
押入れの真つ暗い中に、むつ
と、じやかんで隠れていて、突
然、そこらへんに、がらつと襖
をあげられ、日の光がどつと
来て、でこちゃんに、「見つけ
た！」と大声で言われて、まぶ
しさ、それから、へんな間の悪
さ、それから、胸がどきどきし
て、着物のまえを合せたりして、
ちよつと、てれくさく、押入れ
から出て来て、急にむかむか腹
立たしく、あの感じ、いや、ち
がう、あの感じでもない、なん
だか、もつとやりきれない。

パツとその本に夢中になり、
信頼し、同化し、共鳴し、
それに生活をくっつけてみるのだ。

生活
様式

ロマンチック

燈

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思うほど
活き活きしている。顔は、他人だ。私自
身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、
全然関係なく、別個に自由に活きている。
さようは頬紅も、つけないのに、こんなに
頬がぱつと赤くて、それに、唇も小さく赤く
光って、可愛い。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

眠りに落ちるとその氣持って、へんなものだ。錆が、ろなぞが、くいくい釣糸をひっぱるよりに、なんだか重い、鉛みたいな力が、糸をもって私の顔を、くっついて、私をとろとろ眠りかけると、また、ちよっと糸をゆるめる。すると、私は、ほっと氣を取り直す。また、くっつく。とろとろ眠る。また、ちよっと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、くっつく大きく引いて、こんどは朝まで。

頬紅

美しい青色

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

もあ、もあ、なんでも、どろでも、よくなって来る。ついには、元えっ！と、やけく死になって、味でも体裁でも、めちやめちやに、投げとはして、はたはたやあってしまっ、じつに予機嫌な顔して、お客に差し出す。

の 純粋
の 自己犠牲
の 美しい
も 知っていた

山形の生活、洗車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴、急に、これを持って洗車に乗りたくなくなってしまふ。扇子をひらく感じて、よいもの。ほらほら骨がほじけていって、急にふわりと軽くなる。アハアハもてあえんでいたら、お母さん帰っていらした。御機嫌がよい。

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

お嬢さん

「見つけた」と大きくて言われて、まぶしと、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきとして、着物のまえを合せたりして、ちよっと、てれくさく、押入れから出て来て、急におかおか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだが、もつとやりきれない。

あき、眼をまよとまよとその氣持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真つ暗い中に、じつと、しやがんで隠れていて、突然、でこちやんに、がらつと襦をあげられ、日の光がどつと来て、でこちやんに、

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつとね
なにぬねの
ひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わを

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツトネ
ナニヌネノ
ヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱ

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

お形の生活、流車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを持って流車に乗りだくなってしまう。扇子を知らなく感じて、ふいふの。ぼらばら骨がほどけていって、急にふわつと軽くなる。フルフルと走ってあるでいなら、お母さん帰っていらした。御機嫌がよい。

朝は灰色

おだい、東京の、どこにいるか、ごんじですか？

心の底まで透明になつてしまつて、崇高なこころと、いっただようなまご合のになつた。

あま、眼をこまをこまの気持は、面白い、かくれんぼのとき、押入れの奥の暗い中に、じつと、しりかんで隠れたい、突然、そこちん、からつと顔を出せば、目の光がとつと来、そこちん、
「退つたか」と大舌で言われ、まぶし、足元から、八ん雲間の蒸気、足元から、掃帚とまぶして、着物のまを急遽取り、ちよつと、それと、押入れから出て来、急に光がまぶさ大く、おの感じ、心、ちやう、おの感じとま、なんだが、まのちよつとそれと。

午後

顔面

眠りに落ちるとその気持で、八んなまの。謝か、うなまか、ぐいぐい胸系を引つはるやうに、なんだが重い、鉛みたいな力か、系でまの私の顔を、ぐつと引いて、私がちよつと眠りかすると、まだ、ちよつと系をゆるめる。おなと、私は、はつと系を取ら直す。まだ、ぐつと引く。ちよつと眠る。まだ、ちよつと系を放す。八んなことを三度か、四度くりかえし、足元から、はじめて、ぐつと大まき引いて、こんどは朝まで。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
ひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わぬを
ん

あを、眼をさますとこの気持ち、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの裏つ暗い
中に、じつと、(ちがんで隠れていて、突
然、そこちやんに、がらつと襦をあげら
れ、日の光がじつと来て、そこちやんに、
「見つけた!」と大声で言われて、まぶし
さ、石れから、へんな間の悪さ、石れか
ら、胸がどきどきして、着物のまをを舍
せたりして、ちよつと、てれくさく、押入
れから出て来て、悪におかむか腹立たし
く、あの感じ、いや、ちがう、あの感じで
もない、なんだか、もつとやりきれない。

純粋の
自己犠牲の
美しさを
知っていた

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツト
ナニヌネノ
ハセフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヅエヲ
ン

刹那

キアラメル

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

鏡を覗くと、私の顔は、おれ、と思うほど滑々滑々している。
顔は、他人だ。私自身の悲(さあ)苦(さあ)、そんな心持とは、
全然関係なく、別個に自由に滑々している。

主義

あれは嘘。
朝は灰色。

パツと石の本に夢中になり、
信頼し、同化し、共鳴し、
それに生活をくっつけてみるのだ。

眠りに落ちるとこの気持ち、
へんなものだ。謝か、うなず
か、ぐいぐい釣糸をひっぱる
ように、なんだか重い、釣糸
たいな力が、糸でもつと私の
頭を、ぐつとひいて、私がど
ろどろ眠りかけると、また、
ちよつと糸をゆるめる。する
と、私は、ほつと息を取り直
す。また、ぐつと引く。どろ
どろ眠る。また、ちよつと糸
を放す。そんなことを三度か、
四度くりかえして、石れから
はじめて、ぐうつと大きく引
いて、こんどは朝まで。

文字で彩るコトバと想い

あ い う え お
か き く け こ
さ し す せ そ
た ち つ て と
な に ぬ ね の
は ひ ふ へ ほ
ま み む め も
や ゆ よ れ ろ
わ ゐ ゑ を
ん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

ピンク
ブルー
色
夕露
は

そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

また、ちよつと糸を放す。
私か、とろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめよう。
また、ぐうつと引く。とろとろ眠る。
また、ちよつと糸を放す。

眠りに落ちるとききの気持って、へんなものだ。鮎か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいな力が、糸をもって私の頭を、ぐうつとひいて、私か、とろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめよう。

あたし、東京のどこかにいるか、どこぞんじですか？

百合の
花
五
目
の
薔薇の
キ
ウ
あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真つ時の中に、じつと、しゃかんで隠れていて、突然、てこちゃんに、がらつと襪をあげられ、目の光がどつと来て、てこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じてもない、なんだか、もっとやりきれない。

フォント
ワークス
昭和書体
筆文字
見本帖

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐを
ん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

あさ、眼をさますときの気持は、
面白い。かくれんぼのとき、押入
れの真の暗い中に、じっと、しゃ
がんで隠れていて、突然、でこちゃん
に、がらんと襖をあけられ、日
の光がどっと来て、でこちゃんに、
「見つけた！」と大声で言われて、
まぶしさ、それから、へんな闇の
悪さ、それから、胸がどきどきし
て、着物のほえを合せたりして、
ちよっと、てれささく、押入れか
ら出て来て、急にむかむか腹立
たしく、あの感じ、いや、ちがう、
あの感じでもない、なんだか
あっとやりきれない。

心の底まで透明に
なってしまうって、
崇高なこトブル、
とでもいったような
工合いになった。

哲学の
草原
明日もまた、同じ日が来るのだらう。

眼には透るこトブルの気持って、へんなものだ。謝す、うなずく、
ぐいぐい鉤糸をひくように、なんだか重い、
鉛みたいなのが、糸でもって私の顔を、ぐっどひいて、
私がどろどろ眼りかけた、また、ちよっと糸をゆるめ、
すると、私は、はっと気を取り直す。また、ぐっど引く。どろどろ眼る。
また、ちよっと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、
はじめて、ぐうっと大きく引いて、こんどは朝まで。

文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さしすせそたちつてと
なにぬねのはひふへほ
まみむめもやゆよ
らりるれろわををん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

私は悲しい癖で、顔を両手で
ぴったり覆っていなければ、眠れない。



※爽シリーズは、カスレ等を極力少なくすることで、シンプルなラインを実現し、容量を低く抑えた書体です。

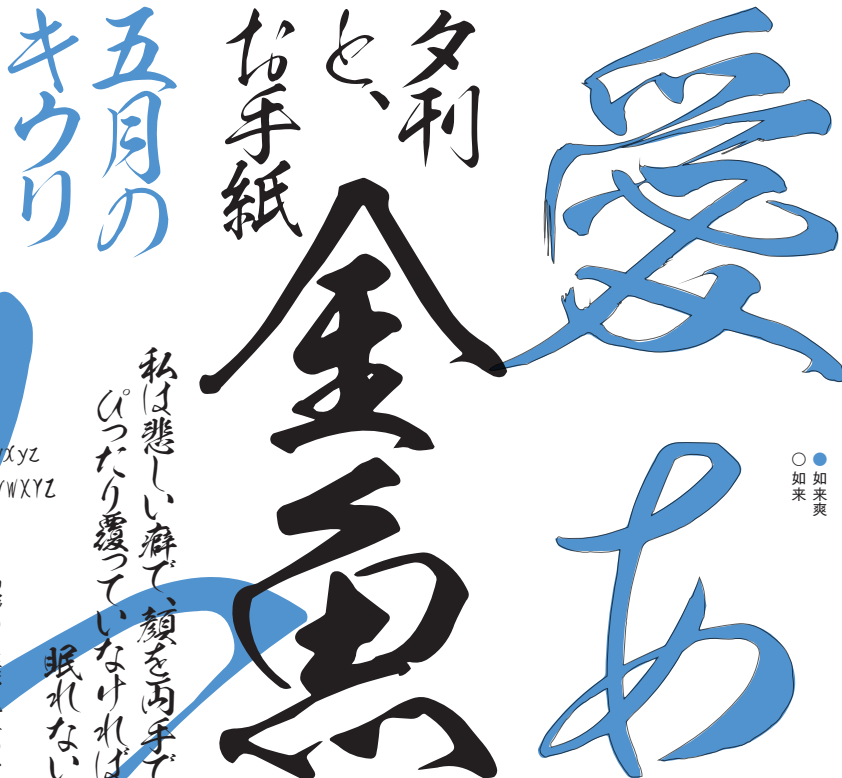
文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さしすせそたちつてと
なにぬねのはひふへほ
まみむめもやゆよ
らりるれろわををん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

山形の生活、汽車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを持って、汽車に乗りだくなつてしまふ。扇子をひらく感じつて、よいもの。ばらばら骨がほどけていって、急にふわつと軽くなる。



●如来
○如来爽

文字で彩るコトバと想い

あい え お
か き く
さ し す
た ち つ
な に ぬ
は ひ ふ
ま み む
や ゆ よ
ら り れ
わ ゐ ろ
ん

眠りに落ちるとききの気持って、
へんなものだ。謝か、うなまか、
ぐいぐい釣糸をひっぱるように、
なんだが重い、鉛みたいな力が、
糸でもって私の顔を、ぐつと引いて、
私かとらとら眠りかけると、
また、ちよつと糸をゆるめる。
すると、私は、はつと気を取り直す。
また、ぐつと引く。とらとら眠る。
また、ちよつと糸を放す。
そんなことを二度か、
何度もくりかえして、それから、
はじめて、ぐつと大きく引いて、
こんどは朝まで。

深緑

鏡を覗くと、私の顔は、
おや、と思うほど
活き活きしている。
顔は、他人だ。
私自身の悲しさや苦しさや、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に活きている。
きょうは頬紅も、つけないのに、
こんなに頬がほっと赤くて、
それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤスヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

独創性

あさ、眼をさますとききの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中
に、どつと、しゃがんで隠れていて、突然、
でこちゃんに、がらつと襦をあげられ、目
の光がどつと来て、でこちゃんに、「見つ
けた!」と大声で言われて、まぶしさ、そ
れから、へんな間の悪さ、それから、胸
がどきどきして、着物のまえを合せたりし
て、ちょっと、てれくさく、押入れから出
て来て、急にむかむか腹立たしく、あの
感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
なんだか、もつとやりきれない。

ピンク色
夕靄は

黒い絹しエス

装飾様式

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
ほひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワをん

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたま
渡穂草は、
牧場か湖水か。

純粹
の
自己犠牲
の
美しさ
も
知っていた

花の
百合

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思っ
はど活き活きしている。顔は、他人だ。
私自身の悲しさや苦しさや、そんな心
持とは、全然関係なく、別個に自由に
活きている。さうは頬紅も、ツツな
いのに、こんなに頬がほっぺ赤くて、そ
れに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

赤

赤

長髪

赤さ、眼をさますときの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真ら暗い中に、
じっと、しゃがんで隠れていて、突然、
でこちゃんに、がらんと襖をあけられ、
目の光がどろと来て、でこちゃんに、
「見つけた！」と大声で言われて、
まぶしさ、それから、ふんわり間の赤さ、
それから、胸がどきどきして、
着物のまえを急せたりして、ちよっと、
てれくさく、押入れから出て来て、
急にむかむか腹立たしく、
あの感、いや、ちがう、あの感でもない、
なんだか、もっとやりきれない。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

私は、
悲しい
癖で、
顔を
両手で
ひたたり
覆って
いなければ
眠れない。

薔薇のワルツ

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思うほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。きょうは頬紅も、つけないのに、こんなに頬がぱっと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

即興

王子さまのいないシンデレラ姫。

眠りに落ちるとききの気持って、へんなものだ。解か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいな力が、糸でもって私の顔を、ぐっとひいて、私ごとろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐっと引く。とろとろ眠る。また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じつと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、からつと襦をあげられ、目の光がどつと来て、でこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさを、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを命せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

朝は
健康だ
なんて、
あれは嘘。

朝は灰色。

草原

詩

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

純粋の自己犠牲の
美しさ
知っていた

鏡を覗くと、
私の顔は、
おや、
と思うほど
生き生きしている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しきや苦しきや、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に活きている。
まぶしは顔紅む、
つけないのに、
こんな顔が
はっと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く光って可愛い。

純粋の自己犠牲の美しさ知っていた

青い酸漿

もう、もう、なんでも、どうでも、よくなって来る。ついには、ええっ！
と、やけそになつて、味でも体裁でも、めちやめちやに、
投げとばして、はたばたわってしまつて、じつに不機嫌な顔して、お客に差し出す。

生活様式

あたし、東京の、
どこに、いるか、
ごぞんじですか？

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中
に、じつと、しゃがんで隠れていて、突然、
でこちゃんに、がらつと襪をあげられ、
日の光がどつと来て、でこちゃんに、
「見つけた！」と大声で言われて、まぶし
さ、それから、へんな間の悪さ、それか
ら、胸がどきどきして、着物の子えを合せ
たりして、ちよつと、てれくさく、押入れか
ら出て来て、急にむかむか腹立たしく、
あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
なんだか、もっとやりきれない。

福

フォント
ワークス
昭和書体
筆文字
見本帖

文字で彩るコトバと想い

あさ、眼をさますとさの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じつと、しやがんで隠れていて、突然、でこちやんに、がらつと襖をあけられ、日の光がどつと来て、でこちやんに、「見つけた！」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまを合せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もつとやりきれない。

ハムや卵

ほんとうに私は、
どれが本当の自分かわからない。

読む本がなくなつて、

真似するお手本がなんにも見つからなくなった時には、

私は、いったいどうするだろう。

手も足も出ない、萎縮の態で、

おやみに鼻をかんでばかりいるかも知れない。

何しろ電車の中で、

毎日こんなふうにふらふら考えているばかりでは、だめだ。

からだに、厭な温かさが残つて、やりきれない。

あいうえお
かさしすそ
たちつと
なぬねの
はひふむほ
まみよれろ
やゆよるろ
らりるるる
わわわん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤスヨルロ
ワヅヅヅ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

深緑

私は
悲しい癖で、
顔を両手で
びったり覆つて
いなければ、
眠れない。

朝¹灰色

眠りに落ちるとさの気持って、へんなものだ。鮒か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいな力が、糸でもって私の顔を、ぐつとひいて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐつと引く。とろとろ眠る。また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

夕刊と、お手紙

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真つ暗い中に、じつと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、がらつと襖をあけられ、日の光がどつと来て、でこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の癒さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちょっと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

郵便

黒い絹

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

便

眠れない。
いなければ、
ぴつたり覆つて
顔を両手で
悲しい癖で、
私は

ス

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

美しい青色

もう、もう、なんでも、どうでも、よくなって来る。ついには、ええっ!
と、やけくそになって、味でも体裁でも、めちやめちやに、
投げとばして、ばたばたやっしまつて、じつに不機嫌な顔して、お客に差し出す。

眠りに落ちるとききの気持つて、へんなものだ。お餅か、うなぎか、くいくい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいな力が、糸でもって私の頭を、ぐつとひいて、私かどろどろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐつと引く、とろとろ眠る。また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐつと天きく引いて、こんどは餅まで。

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる
波稜草は、
牧場が湖水か。

函

文字で彩るコトバと想い

あいりえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

パリの裏町

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真つ暗い中に、じつと、じやがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、がらつと襖をあけられ、目の光がどつと来て、でこちゃんに、「見つけた！」と大声で言われて、まぶらさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もつとやりきれない。

飾式
装様

心

眠りに落ちるとききの気持つて、へんなものだ。鮒が、ろなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだが重い、鉛みたいな力が、糸でもつて私の顔を、ぐつとひいて、私がとうとう眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐつと引く。とうとう眠る。また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐらつと大きく引いて、こんどは朝まで。

真夜中
アングラしろ

心の底まで透明になつてしまつて、崇高なこヒル、とでもいつたよるなエ合ひになつた。

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思ふほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由な活きている。まよらは顔舞も、つけないの、こんな顔がばつと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

あたし、東京の、どこにいるか、ごぞんじですか？

文字で彩るコトバと想い

あいうえお かきくけこ
さしすせそ たちつと
なにぬねのはひふへほ
まみむめも やゆよ
らりるれろ わるゑをん

アイウエオ カキクケコ
サシスセソ タチツト
ナニヌネノ ハヒフヘホ
マミムメモ ヤヨ
ラリルレロ ワヅヅヨン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

眠りに落ちるときは、へんなものだ。謝か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいな力が、糸でもって私の頭を、ぐっとひいて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと糸を取り直す。また、ぐっと引く。とろとろ眠る。また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、何度も繰り返して、それから、はじめて、ぐうっと大きく引いて、こんどは朝まで。

朝

パリの裏町
花の百合

パッとその本に夢中になり、信頼し、
同化し、共鳴し、それに生活をくっつけてみるのだ。

※爽シリーズは、カスレ等を極力少なくすることで、シンプルなラインを実現し、容量を低く抑えた書体です。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお かきくけこ
さしすせそ たちつと
なにぬねのはひふへほ
まみむめも やゆよ
らりるれろ わるゑをん

アイウエオ カキクケコ
サシスセソ タチツト
ナニヌネノ ハヒフヘホ
マミムメモ ヤヨ
ラリルレロ ワヅヅヨン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

眠りに落ちるときは、へんなものだ。謝か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいな力が、糸でもって私の頭を、ぐっとひいて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。

パリの裏町

愛

花の百合 朝 あ

般若 Hannya

文字で彩るコトバと想い

あいりえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わるを
ん

鏡を覗くと、
私の顔は、
おや、
と思ろほど
活き活きしている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさや苦しさを、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に活きている。
さよらは頬紅も、
つけないのに、
こんなに頬が
ぱっと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く光って、可愛い。

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

山形の生活。洗車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを持って洗車に乗りたくなくなってしまふ。扇子をいらく感じって、よいもの。ばらばら骨がほどけていって、急にふわっと軽くなる。クルクルもてあそんでいたら、お母さん帰っていらした。御機嫌がよい。

薔薇の
ワルツ

「見つけた！」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の憂さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを念せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にをかわか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

いらいらの

漿 酸 い
情者
ケッセルの顔

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思ろほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。さよらは頬紅も、つけないのに、こんなに頬がぱっと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
ひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わををん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

夕霧は。ピンク色

朝は
健康だ
なんて、
あれは嘘。

朝は灰色。

あゝ、眼をこますとの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真つ時い中
に、「っと、しゃがんで隠れていて、突然
でござんに、がらっと襪をわけられ、目
の光がどっと来て、でござんに、「見つ
けた！」と大声で言われて、まぶさ、そ
れから、へんな間の憂念、それから、胸
がどきどきして、着物のまをを合さたり
して、ちょっと、でかくさく、押入れから
出て来て、急にむかむか顔立たく、あ
の感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
なんだが、むっとやりきれない。

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる
菘蓼草は、
牧場が湖水が。
の
ポポ
オオ
ズ

蒲団

風 是 東

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思っはど
ろろ汚れている。顔は、他人だ。私自身
の顔（さや）さや、そんな心持では、金
器関係なく、別個に自由に汚れている。

黒龍 Kokuryu

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

文字で彩るコトバを想い

おわりんおかさくけこ
さしすせえたあつてを
なにぬねのほひふへ
まみむめもやゆじ
らりるれろわるゑをん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

カタの足音

眼りに落ちるときの足持つて、へんな
めだ。脚が、うなぎが、ぐわぐわ釣
糸をひつぽるはうに、なんだが重い、
録ふたひな才が、糸でもつて眼の頭
毛、ぐつとひいて、眼がぶるぶる眼り
かけると、また、あいつを糸をゆるめ
る。すると、眼は、はつと糸を取り直
す。また、ぐつと引く。とらとら眼る。
また、あいつを糸を放す。えんなこと
も三度か、回度くりかえして、えんか
ら、はじめて、ぐわつと大きく引いて、
こんどは朝まで。

おたし、東京め、
どこにいらるか、
ごえんじですか？

黒龍爽 Kokuryu Sou

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

※爽シリーズは、カスレ等を極力少なくすることで、シンプルなラインを実現し、容量を低く抑えた書体です。

文字で彩るコトバを想い

おわりんおかさくけこ
さしすせえたあつてを
なにぬねのほひふへ
まみむめもやゆじ
らりるれろわるゑをん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

カタの足音

眼りに落ちるときの足持つて、へんな
めだ。脚が、うなぎが、ぐわぐわ釣
糸をひつぽるはうに、なんだが重い、
録ふたひな才が、糸でもつて眼の頭
毛、ぐつとひいて、眼がぶるぶる眼り
かけると、また、あいつを糸をゆるめ
る。すると、眼は、はつと糸を取り直
す。また、ぐつと引く。とらとら眼る。
また、あいつを糸を放す。えんなこと
も三度か、回度くりかえして、えんか
ら、はじめて、ぐわつと大きく引いて、
こんどは朝まで。

● 黒龍爽
○ 黒龍

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わををん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

純粹
の
自己犠牲
の
美しさ
も
知っていた

予

百合の におい

鏡を覗くと、
私の顔は、
おや、
と思うほど
生き生きしている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさや苦しさを、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に生きています。
きょうは頬紅も、
つけないのに、
こんなに頬が
ほっと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く光って、可愛い。

眠りに落ちるとときの気持って、へんなものだ。謝か、うなぎか、
ぐいぐい釣糸をひっぱるるように、なんだか重い、
寝みたいな力が、糸をもって私の顔を、ぐっとひいて、
私がとろとろ眠りかけると、また、ちょっと糸をゆるめる。
すると、私は、はっと息を取り直す。
また、ぐっと引く、とろとろ眠る。また、ちょっと糸を放す。
そんなことを三度か、四度くりかえして、
それから、はじめて、ぐっと大きく引いて、
こんどは朝まで。

黒い絹 レス

感

あさ、眼をさますときの気持は、
面白い。かくれんぼのとき、押入
れの真っ暗い中に、じっと、しゃが
んで隠れていて、突然、でこちゃ
んに、がらっと襖をあけられ、日
の光がどっと来て、でこちゃんに、
「見つけた！」と大声で言われて、
まぶしさ、それから、へんな間の
悪さ、それから、胸がどきどきし
て、着物のまえを合せたりして、
ちょっと、てれくさく、押入れから
出て来て、急にむかむか腹立たし
く、あの感じ、いや、ちがう、あの
感じでもない、なんだか、もっとや
りきれない。

白虎 Byakko

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さじすせそたちつと
なにぬねのひふへほ
まみやめもやゆよ
らりるれろわををん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツト
ナニヌネノヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ワリルレロワををん

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789



純粹の自己犠牲の美しさを知っていた

眼りに隠れるときのはげしき、
八んなもろだ。鮮か、うなぎか、
いぐい釣糸をひつけるように、
なななが重い、鉛なたいな力が、
でもって私の顔を、ぐつとひいて、
私がとらると眼りかける。また、
ちよつと糸をゆるめる。すると、
私に、ぐつと息を吹き直す。また、
ぐつと引く。とらると眼る。また、
ちよつと糸を放す。おんなことを
三度か、四度ぐりかえして、おれ
から、はじめて、ぐうつと大きく
引いて、おんなは朝まで。

ハムや卵

白虎爽 Byakko Sou

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

※爽シリーズは、カスレ等を極力少なくすることで、シンプルなラインを実現し、容量を低く抑えた書体です。

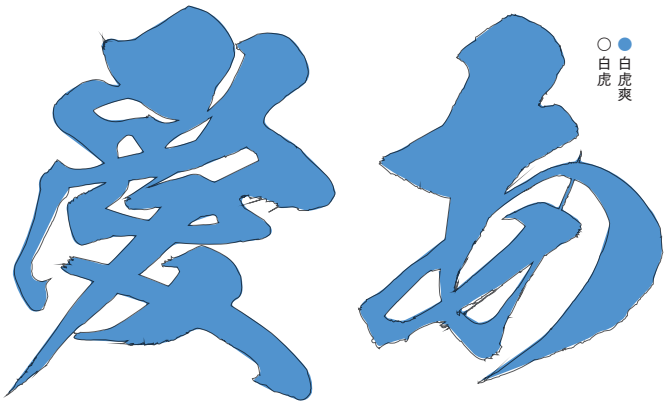
文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さじすせそたちつと
なにぬねのひふへほ
まみやめもやゆよ
らりるれろわををん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツト
ナニヌネノヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ワリルレロワををん

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

眼りに隠れるときのはげしき、
八んなもろだ。鮮か、うなぎか、
いぐい釣糸をひつけるように、
なななが重い、鉛なたいな力が、
でもって私の顔を、ぐつとひ
いて、私がとらると眼りかける
と、また、ちよつと糸をゆるめ
る。すると、私に、ぐつと息を
吹き直す。また、ぐつと引く。
とらると眼る。また、ちよつと
糸を放す。



● 白虎爽

純粹の自己犠牲の
美しさも
知っていた

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わるゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニタネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

鏡を覗くと、私の顔は、ちや、と
思うほど活き活きしている。顔
は、他人だ。私自身の悲しさや
苦しさを、そんな心持とは、全然
関係なく、別個に自由に活きて
いる。さようは頬紅も、つけない
のに、こんなに頬がぱっと赤く
て、それに、唇もふさく赤く光っ
て、可愛い。

朝は
健康だ
なんて、
あれは嘘。
朝は灰色。

在

眠りに落ちるとききの気持で、へんなものだ。謝か、うなまか、
ぶい、い、釣糸をひっぱるように、なんだが重い、
おんた、いな力が、系でもって私の顔を、ぶつとひいて、
私がとらとら眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。
すると、私は、はつと気を取り直す。
また、ぶつと引く。とらとら眠る。また、ちよつと糸を緩す。
そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、
はじめて、ぶつと大きく引いて、こんどは朝まで。

深緑

長い

雨傘

あたし、東京の、
どこにいますか、
ごぞんじですか？
夕靄は

とんこう色

仙人 Sennin

文字で移るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツネト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

牧場か湖水か
葎草は、

緑したたる
お皿に敷かれて、

扇子のように
鳥の羽の

鏡を纏くと、私の顔は、おや
と思うほど活き活きして
る。顔は、他人だ。私自身の
悲しさや苦しさを、そんな
心持とは、全然関係なく、別
個に自由に活きている。ま
よ前は頬紅も、つけないの
は、こんなに頬がぱつと赤
くて、それは、赤も小さく赤
く光って、可愛い。

読書

お

母

もう、もう、なんでも、どうでも、よくなって来る。ついに、ええっ！
と、やけくそになって、味でも体裁でも、めちやめちや、
投げとばして、ばたばたやっして、じつは不機嫌な顔して、お客に差し出す。

眼鏡
は、
お化け

道

具

花の
薔薇

山形のお祭、汽車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。
悪は、これを持って汽車に乗りたくなくて。扇子
をひらく感じって、よいもの。ばらばら骨がほけて
いて、悪はふわっと軽くなる。クルクルもてあそん
でいたら、お母さん帰っていらした。御機嫌がよい。

文字で彩るコトバと想い

あいろえお 鏡を覗くと
かきくけこ 私の顔は
さしすせそ おや、
たちつてと と思ろはと
なにぬねの 活き活きている。
はひふへほ 顔は、他人だ。
まみむめも 私自身の
やゆよ 悲しさや苦しさは、
らうるれろ そんな心持では、
わるゑをん 全然関係なく、
別に自由に活きている。
ん きょうは頬紅も、
つけないのに、
こんなには頬が

アイウエオ ぱっと赤くて、
カキクケコ それに、唇も小さく
サシスセソ 赤く光って、可愛い。
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤスヨ
ラリルレロ
ワヱエヨ
ン

装飾 様式

abcdefghijklmnop&stuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNopqRSTUVWXYZ
0123456789

鏡

眼りに落ちるときの気持って、
へんなものだ。謝か、うなぎか、
どいぐい釣糸をひっぱるように、
なんだか重い、鈍みたいな力が、
糸でもって私の顔を、ぐっとひいて、
私がとろとろ眼りかけると、
また、ちよつと糸をゆるめる。
すると、私は、はつと気を取り直す。
また、ぐっと引く。とろとろ眼る。
また、ちよつと糸を放す。
そんなことを三度か、
四度くりかえして、それから、
はじめて、どろつと大きく引いて、
こんどは朝まで。

あたし、東京の、どこにいるか、 ごぞんじですか？

あき、眼をさますときの気持は、面白い。か
くれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、
じっと、しゃがんで隠れていて、突然、でこ
ちゃんに、からっと顔をあげられ、目の光
がどっと来て、でこちゃんに、「見つけた！」
と大声で言われて、まぶしさ、それから、へ
んな間の悪さ、それから、胸がどきどきし
て、着物のまえを合せたりして、ちよつと、
でれくさく、押入れから出て来て、急にむ
かむか顔立ち、あの感じ、いや、ちが
う、あの感じでもない、なんだか、もっと
やうきれない。

純粹
の
自己犠牲
の
美しさ
も
知っていた

灰色朝は

フォント
ワークス
昭和書体
筆文字
見本帖

文字で彩るコトバと想い

あいお
かきくこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりれろ
わゐを
ん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

眠りに落ちるときは、
ぐいぐい釣糸をひっぱるように、
鉛みたいなのが、糸でもって私の頭を、ぐっとひいて、
私ごとろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。
すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐっと引く。とろとろ眠る。
また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、
はじめて、ぐうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

鏡を覗くと、
私の顔は、
おや、
と思うほど
生き生きしている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさや苦しさや、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に生きてる。
きょうは頬紅も、
つけないのに、
こんなに頬が
ぱつと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く光って、可愛い。

言葉

あたし、東京の、どこに
ごぞんじですか？

薔薇のワルツ

朝は
健康だ
なんて、
あれは嘘。
朝は灰色。

ポ

あさ、眼をさますときは、面白い。か
くれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、
じつと、しゃがんで隠れていて、突然、でこ
ちゃんに、からつと襦をあげられ、日の光
がどつと来て、でこちゃんに、「見つけた！」
と大声で言われて、まぶしさ、それから、
へんな間の悪さ、それから、胸がどきどき
して、着物のまえを合せたりして、ちよつ
と、てれくさく、押入れから出て来て、急に
むかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ち
がう、あの感じでもない、なんだか、もつ
とやりきれない。

ア ン グ レ ラ

遣

文字で彩ることばと想い

あいかさたなはさやうらわん
あかすちなはさやうらわん
あけつこぬふおる
おくそこのほめら
おくそこのほめら

こんな日は初めて。
はじめて、ごあつと大きく引いて、
何度もくりかえして、それから、
そんなことを三度か、
また、ごつと引く。とらをとら眺る。
また、ごつと引く。とらをとら眺る。
また、ごつと引く。とらをとら眺る。
また、ごつと引く。とらをとら眺る。

眠りに落ちるとまの字持つて、
へんなものだ。射撃、あなまか、
ぐいぐい釣針をひっぱる。あに、なんだか重い、
軽みたいな力か、孫ごもつて私の股を、
ごつと引いて、私かとらをとら眺りかけると、
また、ごつと引く。とらをとら眺る。
また、ごつと引く。とらをとら眺る。
また、ごつと引く。とらをとら眺る。
また、ごつと引く。とらをとら眺る。

他人取巻

縁を親だ、
私の親は、
白取
と思ふほど
縁を縁にしている。
親は、他人だ。
私自分の
世にさあさあさあ
そんな気持ち
全然無体な、
別個に自由に縁にしている。
さよあはれ私か
つけないのに、
こんな縁か
ばつと引いて、
それか、着る小然
知ん先って、可愛い。

百六の取巻

蕪蕪の巻

ほんとは私に、とれか本物の自分かかわからない。流
お奉りなごなつて、蕪蕪するお奉りなごも見つから
なごなつた時には、私は、いったいどうするだらあ。手も足
も出ない、蕪蕪の縁ご、お及らぬをかんごばかりいる
かかわれない。何しろ電率の中で、毎日こんなにから
ら考へていざばかりでは、だめだ。からだに、磨き澄か
さかおつて、やりきれない。

美しい書体
中

文字で彩るコトバと想い

 あいうえお
 かきくけこ
 さしすせそ
 たちつと
 なにぬねの
 はひふへほ
 まみむめも
 やゆよ
 らりるれろ
 わるををん

 アイウエオ
 カキクケコ
 サシスセソ
 タチツテト
 ナニヌネノ
 ハヒフヘホ
 マミムメモ
 ヤユヨ
 ラリルレロ
 ワ本エヲ
 ン

 abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 0123456789

 ビンク色
 夕雨は
 濁は

む

あす、眼をすくませるとききの気持は、面白い。
 かくれんぼのとき、押入れの真つ暗い中に
 じつと、しゃがんで隠れていて、突然、
 で、ちやんに、がらつと襦をあげられ、
 目の光がどつと来て、で、ちやんに、
 「見つけた！」と大声で言われて、
 まふして、それから、へんな間の悪さ、
 それから、胸がどきどきして、
 着物のまえを合せたりして、ちゅつと、
 てれくさく、押入れから出て来て、
 急にむかむか腹立たしく、
 あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
 なんだか、もつとやりきれない。

 薔薇の
 ワルツ

 パリの
 裏町

眠りに落ちるとききの気持で、へんなもの
 だ。鮒か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひつ
 ばるように、なんだか重い、鉛みたいな力
 が、糸でもって私の頭を、ぐつとひいて、私
 がとろとろ眠りかけると、また、ちゅつと糸
 をゆるめる。すると、私は、はつと糸を取り
 直す。また、ぐつと引く。とろとろ眠る。ま
 た、ちゅつと糸を放す。そんなことを三度か、
 四度くりかえして、それから、はじめて、ぐ
 うつと大きく引いて、こんどは朝まで。

03. Design



黄龍
Kouryu

迅鳥
Jinbu

新豪龍／豪龍夾
Shin Goryu / Goryu Sou

白龍／白龍夾
Hakuryu / Hakuryu Sou

創
Sou

陽炎
Kagehana

關龍／關龍夾
Toukyu / Toukyu Sou

かくや
Kakuya

昭和隸書
Showa Reisho

逆刃
Yugin

逆和
Yatai

金剛
Kongo

逆隸
Yatai

風来坊
Furabou

昭和心げ文字
Shouwa Kigemonji

昭和寄席文字
Shouwa Yoseimonji

昭和勸学流
Shouwa Kankengaryu

地藏
Jizan

親音
Kannon

不動
Fudo

普賢
Fugen

虚空藏
Kobuzou

弥勒
Mitoku

孔雀
Kogyaku

文珠
Monju

勢至
Seishi

八叶ころ
Basu-koro

文字で彩るゴトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

純粋
の
自己犠牲
の
美しさを
も
知っていた

深緑

豆の葉

山形の実、汽車の中、浴衣、西瓜、川、輝、風鈴。
急に、これを持って汽車に乗りたくてしまふ。扇
子をひらく感じて、よいもの。ぼらぼら骨がほどけ
ていって、急にふわっと軽くなる。クルクルもてあそ
んでいたら、お母さん帰っていた。御機嫌がよい。

箒

鳥の羽の
扇子のよゝに
お皿に敷かれて、
緑したたる
葎蓑草は、
牧場か湖水か。

鏡を覗くと、
私の顔は、
おれ、
と思ひほど
淫を淫している。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさを苦しさを、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に淫している。
おれは顔紅れ、
つけないのに、
こんな顔が
ぼつと赤くて、
それに、唇も赤く
赤く光って、可愛い。

笥

眼りに落ちるとその気持って、
へんなものだ。謝か、おんをか
ぐいとい納糸をひくばるよりに、おんが重い、
軽たいな力が、糸でもって私の顔を、ぐつとひいて、
私がとろとろ眼りかけると、また、
ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、
はつと気を収り直す。また、ぐつと引く。とろとろ眼る。
また、ちよつと糸を放す。
そんなことを三度か、回度くりかえして、それから、
はじめて、ぐつと大きく引いて、こんどは朝まで。

文字で転るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わるゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvxyz
ABCDEFGHIJKLMNopQrstUVWxyz
0123456789

眠りに落ちる時の気持ちで、へんなものだ。鯡か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鈍みたいな力が、糸をもって私の顔を、ぐつとひいて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐつと引く。とろとろ眠る。また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

アンブレら

もう、もう、なんでも、どうでも、よくなって来る。ついには、ええっ！と、やけくそになって、味でも体裁でも、めちやめちやに、投げとばして、ばたばたやっちゃって、じつに不機嫌な顔して、お客に差し出す。

くるくる白鼠 コマ 毟

あき、眼をこますときの
気持は、面白。
かくれんぼのとき、
柳入れの真つ暗い中に、
じつと、しやがんで
隠れて、いて、突然、
でこちやんに、がらんと
顔をあげられ、
目の光がどつと来、
でこちやんに、「えつけた」
と大声で言われて、まぶし、
それから、へんな間の要さ、
それから、胸がどきどきして、
着物のまえを合せたりして、
ちよつと、てれくさく、
柳入れから出て来て、
急にむかむか腫れたしく、
あの感じ、や、ちかう、
あの感じでもない、
なんだか、もうとやりきれない。

心の底まで透明になっ
てしまっ
て、
崇高なこ
とでもい
つたよう
な
ふかい
になつた。

眠りに落ちる時の気持ちで、へんなものだ。鯡か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鈍みたいな力が、糸をもって私の顔を、ぐつとひいて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐつと引く。とろとろ眠る。また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

百合の花

新豪龍 Shin Goryu

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さしすせそたちつてと
なにぬねのはひふへほ
まみめむやゆよ
らりるれろわををん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

痛

私は
悲しい辭で、
顔を手で
ひたたり掻って
いなければ、
眠れない。

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる
渡蔭草は、
牧場か湖水か。

眠りに落ちるとききの気持で、へんなものだ。謝か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいなのが糸でもって私の顔を、ぐっせいで、私がとらとら眠りかけると、また、ちよっぴ糸をゆるめる。すると、私は、はっぴ息を取り直す。また、ぐっせ引く。とらとら眠る。また、ちよっぴ糸を抜す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐっせ大きく引いて、こんどは朝まで。

パリの裏町

豪龍爽 Goryu Sou

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

※爽シリーズは、カスレ等を極力少なくすることで、シンプルなラインを実現し、容量を低く抑えた書体です。

文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さしすせそたちつてと
なにぬねのはひふへほ
まみめむやゆよ
らりるれろわををん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

パリの裏町

愛

● 豪龍爽
○ 新豪龍

私は
悲しい辭で、
顔を手で
ひたたり掻って
いなければ、
眠れない。

眠りに落ちるとききの気持で、へんなものだ。謝か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいなのが糸でもって私の顔を、ぐっせいで、私がとらとら眠りかけると、また、ちよっぴ糸をゆるめる。すると、私は、はっぴ息を取り直す。また、ぐっせ引く。とらとら眠る。また、ちよっぴ糸を抜す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐっせ大きく引いて、こんどは朝まで。

痛

白龍 Hakuryu

文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さしすせそたちつてと
なにぬねのはひふへほ
まみむめもやゆよ
らりるれろわをん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ
0123456789

眠りに落ちるときの気持ちで、へんなものだ。謝か、うなだか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいなのが、糸であって私の顔を、ぐっと引いて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよっと糸をゆるめる。すると、私は、はっと気を取り直す。また、ぐっと引く。とろとろ眠る。また、ちよっと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうっと大きく引いて、こんどは朝まで。

あたし、東京の、どこにいるか、ごぞんじですか？

白龍爽 Hakuryu Sou

※爽シリーズは、カスレ等を極力少なくすることで、シンプルなラインを実現し、容量を低く抑えた書体です。

文字で彩るコトバと想い

あいうえおかきくけこ
さしすせそたちつてと
なにぬねのはひふへほ
まみむめもやゆよ
らりるれろわをん

アイウエオカキクケコ
サシスセソタチツテト
ナニヌネノハヒフヘホ
マミムメモヤユヨ
ラリルレロワヰヱヲン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMN OPQRSTUVWXYZ
0123456789

眠りに落ちるときの気持ちで、へんなものだ。謝か、うなだか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいなのが、糸であって私の顔を、ぐっと引いて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよっと糸をゆるめる。すると、私は、はっと気を取り直す。また、ぐっと引く。とろとろ眠る。また、ちよっと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうっと大きく引いて、こんどは朝まで。

あたし、東京の、
どこにいるか、
ごぞんじですか？

● 白龍爽
○ 白龍

創 Sou

文字で彩るゴトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつとてと
なにぬねの
ひふひふほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ワヰルレロ
ン

装飾式 装標式

筆は ピンク色

装標式がなくなると、装飾式
のお手本がなんにも見つから
なくなった時には、装標、いっ
たんと手本だらう。手本も
もあない、筆縮の態で、装標
みに身をまかせはかりいる方
も知れない。何しろ電車の中
で、毎日こんなふうから考
えているばかりでは、だめだ。

あたし、東京の、どらにいたるが、
どらんどらですが

哲学のじつぽ

眠りに落ちるときの気分って、へんなものだ。翹か、まなざが、ぐいぐい鉤糸をひっぱるように、なれたが重い、
魅いたいながら、糸でもって袖の顔ま、ぐいと引いて、袖がとらとら眠りかけるよ。また、ちよと糸をゆるめる。
するよ、袖は、ほつと糸をゆるむ。また、ぐいと引く。とらとら眠る。また、ちよと糸をゆるむ。それなるととととと、
四度くりがわって、と水がらはほつと、ぐいととととと引いて、こんな日は朝まで。

水鏡

装の

美(の)春色

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをを
ん

あさ、眼をさますとその気持は、面白い。かぐれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、むっとう、むっとうと隠れていて、突然、どこちやんに、がらっと襪をあげられ、目の光がどつと来て、どこちやんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさと、光れから、気な間の悪さと、光れから、胸がどきどきして、着物の変臭を合せてたりして、ちよつと、とれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じで芝のない、なんだが、もつとやりきれない。

私は
悲しい癖で、
顔を両手で
びつたり覆って
いなくなるばい。
眠れない。



タイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤエヨ
ラリルレロ
ワエエヲ
ン

扇子のように
お皿に敷かれて、
緑もたたる
蒨菘草は、
牧場か湖水か。

鳥の羽の
道
具

abcdefghijklmnopqrstvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNPOPQRSTUVWXYZ
0123456789

鏡を覗くと、
私の顔は、
いや、
と思うほど
汚き汚きしている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさや苦しさを、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に汚きしている。
さようは頬紅も、
つけないのに、
こんなに頬が
ぱつと赤くて、
光れに、唇も小さく
赤く光って、可愛い。

朝は
健康だ
なんて、
おれは嘘。
朝は灰色。

眠りに落ちるとその気持って、へんなものだ。射水、うなぎ水、ぐいぐいの釣糸を引っぱるような、なんだが重い、鉛みたいな力が、糸を引っぱって私の顔を、ぐいと引いて、私がとらとら眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、ぐいと引く。とらとら眠る。また、ちよつと糸をゆるめる。そんなことを三度か、四度くりかえして、光れから、はじめて、ぐいと天と引いて、こんな朝まで。

力了の足音

閩龍 Touryu

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

文字で彩るコトバと想い

あい え お か き く け こ
さ し す せ そ た ち つ て と
な に の ぬ ね の は ひ ふ へ ほ
ま み む め も や ゆ よ
ら り る れ ろ わ ゐ ゑ を ん

ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ
サ シ ス セ ソ タ チ ツ テ ト
ナ ニ ヌ ネ ノ ハ ヒ フ ヘ ホ
マ ミ ム メ モ ヤ ユ ヨ
ラ リ ル レ ロ ワ む ゑ ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

青い酸漿

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思
うほど活き活きしている。顔は、他
んだ。私自身の悲しさや苦しさや、
そんな心持とは、全然関係なく、
別個に自由に活きている。きょう
は頬紅も、つけないのに、こんな
に頬がばつと赤くて、それに、唇も
小さく赤く光って、可愛い。

こんなことを三度か、
四度くりかえして、それから、
はじめて、ぐうっと大きく引いて、
こんな日は朝まで。

眠りに落ちるとききの気持で、
へんなものだ。謝か、うなぎか、
ぐいぐい釣糸をひっぱるように、
なんだか重い、鉛みたいなのが、
糸でもって私の顔を、ぐいぐいひいて、
私がどうしようも開けかけると、
また、ちよつと糸をゆるめる。
また、ちよつと糸をゆるめる。
すると、私は、はつと糸を切り直す。
また、ぐうっと引く。どうしようも眠る。
また、ちよつと糸を放す。

華麗

閩龍爽 Touryu Sou

昭和書体 LETS

LETS

mojimo-fude

※爽シリーズは、カスレ等を極力少なくすることで、シンプルなラインを実現し、容量を低く抑えた書体です。

文字で彩るコトバと想い

あい え お か き く け こ
さ し す せ そ た ち つ て と
な に の ぬ ね の は ひ ふ へ ほ
ま み む め も や ゆ よ
ら り る れ ろ わ ゐ ゑ を ん

ア イ ウ エ オ カ キ ク ケ コ
サ シ ス セ ソ タ チ ツ テ ト
ナ ニ ヌ ネ ノ ハ ヒ フ ヘ ホ
マ ミ ム メ モ ヤ ユ ヨ
ラ リ ル レ ロ ワ む ゑ ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思
うほど活き活きしている。顔は、他
んだ。私自身の悲しさや苦しさや、
そんな心持とは、全然関係なく、
別個に自由に活きている。きょう
は頬紅も、つけないのに、こんなに
頬がばつと赤くて、それに、唇も
小さく赤く光って、可愛い。

華麗 青い酸漿

見る 愛 あ

● 閩龍爽

文字で彩るコトバと想い

あ い う え お
か さ く け こ
さ し す せ ぞ
た ち つ て と
な に ぬ ね の
は ひ ふ へ ほ
ま み め も
や ゆ よ
ら り ろ れ ろ
わ ゐ を
ん

ア イ ウ エ オ
カ サ ク ケ コ
サ シ ス セ ソ
タ チ ツ テ ト
ナ ニ ヌ ネ ノ
ハ ヒ フ ヘ ホ
マ ミ メ モ
ヤ ユ ヨ
ラ リ ロ レ
ワ ヱ ヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

花の百合

眼りに落ちるとさの気持って、八んをも
みだ。謝か、みなさか、ぐいぐい釣糸を
ひっぱるうちに、なんだか重い、鉛みたい
いながら、糸でもって私の顔を、ぐっと
ひいて、私ごとろとろ眼りかけると、また、
ちよっと糸をゆるめる。すると、私は、
はっと気を取り直す。また、ぐっと引く。
とろとろ眼る。また、ちよっと糸を放
す。そんなことを三度か、四度くりかえ
して、それから、はじめて、ぐうっと大
く引いて、こんどは朝まで。

高田の
王子さまのいない
お姫様

鏡を覗くと、私の顔は、おれ、と思えばど活々
としている。顔は、他人だ。私自身の悲しき苦
しさゆ、そんな心持とは、全然関係なく、割個に
自由に活々している。さよらは顔紅も、つけないの
に、こんなに頬がぱつと赤くて、それに、唇も小
さく赤く光って、可愛い。

私は
悲しい癖で、
顔を両手で
ぴんたたり覆って
いなすれば、
眠れない。



文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヨ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

縁

心の底まで透明に
なってしまうと、
崇高なニヒル、
とでもいったような
互合いになった。

眠りに落ちるときの気持ちって、へんなものだ。
鮎か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、
なんだか重い、鉛みたいな力が、糸でもって私の頭を、
ぐつとひいて、私がとろとろ眠りかけると、
また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、
はつと気を取り直す。また、ぐつと引く。とろとろ眠る。
また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、
四度くりかえして、それから、はじめて、
ぐうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

ほんとうに私は、どれが本当の自分だかわからない。読む本がなくなって、真似するお手本がなんにも見つからなくなった時には、私は、いったいどうするだろう。手も足も出ない、萎縮の癡で、むやみに鼻をかんてばかりいるかも知れない。何しろ電車の中で、毎日こんなにふらふら考えているばかりでは、だめだ。からだに、厭な温かさが残って、やりきれない。

金魚

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思ふほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。きょうは頬紅も、つけないのに、こんなに頬がばつと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

側

私は
悲しい
癖で、
顔を
両手で
びったり
覆って
いなければ、
眠れない。

装飾式 装様

文字で彩るツトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
ほむほへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをををん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

料理

眠れない。
いなければ、

ぴつたり覆つて

顔を両手で

悲しい癖で、

私は

黒い絹のエス

顔も本がなくなつて、真似するお手本がなんにも見つからなくなつた時には、私は、いたいどうするだろう。手を足を出さない、墓館の態で、むやみに鼻をかんではかりいろかも知れない。何しろ電車の中で、毎日みんなにぶらぶら考をまわしているばかりでは、だめだ。

口
ワ
ワ
ワ

薔薇のワルツ

あど、眼をさますときの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、
じっと、しゃがんで隠れていて、突然、
でっちゃんに、がらっと襪をあげられ、
日の光がどっと来て、でっちゃんに、
「見つけた！」と大声で言われ、まぶさ、それから、
へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、
着物のまをを合せたりして、ちょっと、アれぐさく、
押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、
あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
なんだか、もっとやりきれない。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる
菠薐草は、
牧場が湖水が。

五月の
キウリ

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じっと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、がらっと襦をあげられ、日の光がどっと来て、でこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまゑを合せたりして、ちょっと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむがむが腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだが、もっとやりきれない。

ハムや卵

鏡を覗くと、私の顔は、まや、と思うほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。きょうは頬がぼっと赤くて、こんなに頬がぼっと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

青草原

お手紙

と、夕刊

聖音

山形の生活、汽車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを持って、汽車に乗りたくなってしまふ。扇子をひらく感じ、で、よいもの。ばらばら骨がほどけていって、急にふわっと軽くなる。クルクルもてあそんでいたら、お母さん帰っていらした。御機嫌がよい。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお 鏡を覗くと、私の顔は、
 かきくけこ おや、と思うほど活き活きしている。
 さしおせそ 顔は、他人だ。
 たちつまと 私自身の
 なにぬねの 悲しや苦しさを、
 はひふへほ そんな心持とは、
 まみむめま 全然関係なく、
 やゆよ 別個に自由に活きている。
 らりるろろ きょうは頬紅も、
 わるゑを つけないのに、
 ん こんなに頬が
 ぱと赤くて、
 赤く光って、可愛い。

古城

アイウエオ
 カキクケコ
 サシスセソ
 タチツテト
 ナニヌネノ
 ハヒフヘホ
 マミムメモ
 ヤヨヨ
 ラリルレロ
 ワヰヱヲ
 ン

あたし、東京の、どこにいるか、ごぞんじですか？

眠りに落ちるときの気持って、へんなものだ。謝か、うなぎが、ぐいぐい釣糸を引っ張るように、なんだか重い、鉛みたいなのが、糸でモって私の頭を、ぐっとひいて、私がとろとろ眠りかけると、また、ちよっと糸をゆるめる。すると、私は、はっと気を取り直す。また、ぐっと引く。とろとろ眠る。また、ちよっと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうっと大きく引いて、こんどは朝まで。

花の百合

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
 ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
 0123456789

アング真

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。
 かくはんぼのとき、押入れの真ん中に、
 じつと、しゃがんで隠れていて、突然、
 デニムパンツに、がらりと襦袢をあげられ、
 日の光がとんと来て、デニムパンツに、
 「見つけた」と大声が言われて、まぶしさを、それから、
 へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、
 着物のまを合せたりして、ちよっと、マおくさく、
 押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、
 あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
 なんだが、もってやりきれない。

パッとその本に
 夢中になり、
 信頼し、同化し、共鳴し、
 それに生活を
 くっつけてみるのだ。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれる
わをゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

パリの裏町

あたし、東京の、どこにいるか、
ごぞんじですか？

大

あさ、眼をさますときの気持は面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、
じっと、しゃがんで隠れていて、突然、
でこちゃんに、がらっと襦袢をあげられ、
日の光がどっと来て、でこちゃんに、
「見つけた！」と大声で言われて、まぶしさ、それから、
へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、
着物のまえを合せたりして、ちよっと、てれくさく、
押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、
あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
なんだか、もっとやりきれない。

モオツアルト

夕靄はピンク色

童

眠りに落ちるときの気持って、へんなものだ。餅か、うなぎか、
ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、鉛みたいな力
が、糸でもって私の頭を、ぐっとひいて、私がとろとろ眠りかけ
ると、また、ちよっと糸をゆるめる。すると、私は、はっと気を
取り直す。また、ぐっと引く。とろとろ眠る。また、ちよっと糸
を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、は
じめて、ぐうっと大きく引いて、こんどは朝まで。

朝は
健康だ
なんて、
あれは嘘。
朝は灰色。

文字で彩るフタバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりろ
わを

アイウエオ
カキクケコ
サシタセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

心の底まで透明になつてしまつて、
崇高なニヒル、とでも
いつたよのなエ合ひになつた。

勲強の時間



純粹

の

自己犠牲

の

美しさ

も

知っていた

眠りに落ちるときは、
なまなまの。謝か、うなさが、ぐいぐい
釣糸を引っ張るよりに、なんだか重い、
鉛みたいな力が、糸であつて私の
頭を、ぐつとひいて、私がとらと
ら眠りがけるとき、また、ちよつと糸を
ゆるめる。すると、私は、ほつと息を
取り直す。また、ぐつと引く。とらと
ら眠る。また、ちよつと糸を放す。そ
んなことも三度か、四度くりがえし
て、それが、はじめて、ぐつと大
きく引いて、こゝろは朝まで。

ふみや卯

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思つのはど活き活きして
いる。顔は、他人だ。私自身の悲しき若さや、
そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きて
いる。まよらは頬紅も、つけないのに、こんな頬が
ばつと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

フォント
ワークス
昭和書体
筆文字
見本帖

昭和ひげ文字 Showahigemoji

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

鏡を覗くと、
私の顔は、
おや、
と思うほど
生き生きしている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさや苦しさを、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に活きている。
きょうは頬紅も、
つけないのに、
こんなに頬が
ぱっと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く光って、可愛い。

静

あま、眼をさますときの気持は、面白い。
かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に
じっと、しゃがんで隠れていて、突然、で
こちゃんに、がらっと襦袢をあげられ、日の
光がどつと来て、でこちゃんに、「見つけ
た！」と大声で言われて、まぶしさ、それ
から、へんな間の悪さ、それから、胸がど
きどきして、着物のまをを合せたりして、
ちよっと、てれくさく、押入れから出て来
て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、
いや、ちがう、あの感じてもない、なんだ
か、もっとやりきれない。

ポオズ

パッとその本に夢中になり、信頼し、
同化し、共鳴し、それに生活をくっつけてみるのだ。

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる
蒹葭草は、
牧場か湖水か。

草

原

薔薇のワルツ

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じっと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、がらっと線をあげられ、日の光がどっと来て、でこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな人間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちょっと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

あたし、東京の、
どこにいるか、
ごぞんじてすか?

薔薇の ワルツ

鏡を覗くと、
私の顔は、おや、
と思うほど
活き活きしている。
顔は、他人だ。
私自身の悪しきや
苦しきや、そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に活きている。
きょうは頬紅も、つけないのに、
こんなに頬がぱっと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く光って、可愛い。

装飾 様式

七

金魚

ち

屋

純粋
の
自己犠牲
の
美しさ
も
知っていた

百合のにおい

眼りに落ちるときはの気持って、へんなものだ。射か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひっぱるように、なんだか重い、給みたいな力が、赤でもって私の顔を、ぐっとひいて、私がとうとう眼りかけると、また、ちよっと糸をゆるめる。すると、私は、はっと気を取り直す。また、ぐっと引く。とうとう眠る。また、ちよっと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、ぐうっと大きく引いて、こんどは朝まで。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつとど
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヨ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

柔軟性

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じっと、しゃがんで隠れていて、突然、ごちゃんに、がらっと襪をあげられ、日の光がどっと来て、ごちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまゑを合せたりして、ちょっと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もっとやりきれない。

モオツァルト

ハムや卵

お化け
は、
眼鏡

私は悲しい癖で、
顔を両手でぴったり覆っていなければ、眠れない。

鳥の羽の
扇子のよらに
お皿に敷かれて、
緑したたる
波蕨草は、
牧場か湖水か。

鏡を覗くと、
私の顔は、
おや、
ど思ふほど
結ま結ましている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさや苦しさを、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に結まている。
きょうは頬紅も、
つけないのに、
こんな顔が
ばつと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く光って、可愛い。

文字で彩るつとバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをををん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

心の底まで
透明になつてしまつて、
崇高なまじり、
とでもいつたような
土合いになつた。

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのどき、押入れの真つ暗い中に、じつと、しゃかんで隠れていて、突然、てこちゃんに、からつと襷をあげられ、目の光がじつと来て、てこちゃんに、「見つけた!」と大声で言われて、まじり、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよつと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹をたく、あの感じ、いや、ちやう、あの感じてもない、なんたか、むつとやりきれない。

白然

美し 純粋の 美し

眼りに落ちよるとききの気持つて、へんなものだ。射か、うなぎか、ぐいぐい釣糸をひつぽはじよつに、なんだか重い、鉛た、いな力が、糸でもつて私の頬を、ぐつとひいて、私かともち眼りかけよと、また、ちよつと糸をゆるめよ。すよと、私は、はつと氣を取り直す。また、ぐつと引く。ともち眼よ。また、ちよつと糸を誘す。そんなまじりとを三度か、四度くりかえして、それから、はいめて、ぐつと大きく引いて、こんでは朝まで。

百合のにおい

ハつとその本に夢中になり、信頼し、園化し、共鳴し、それに生活をいつつけてみるのだ。

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰエヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

眼鏡 は、 お化け

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの真っ暗い中に、じっと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、からっと線をあけられ、白の光がどっと来て、でこちゃんに、「見つけた！」と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよっと、てれくさく、押入れから出て来て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、なんだか、もったやりきれない。

純粋
の
自己犠牲
の
美しさ
も
知っていた

鏡を覗くと、私の顔は、
わや、
ど思うほど
活き活きしている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲しさや苦しさや、
そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に活きている。
さようは頬紅も、
つけないのに、
こんなに頬が
ほっと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く赤って、可愛い。

眠りに落ちるとききの気持って、へんなものだ。
船か、うなぎか、くいくい釣糸をひっけるように、
なんだか重い、鉛みたいなのが、糸でもって私の頭を、ぐっどひいて、
私かどうして眠りかけると、また、ちよっと糸をゆるめる。
すると、私は、はっど息を取り直す。
また、ぐっど引く。どうして眠る。また、
ちよっと糸を抜す。そんなことを三度か、
四度くらいかえして、それから、
はじめて、ぐうっど大きく引いて、
こんどは朝まで。

無 の 心

カア の 足音



文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わみゑをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

言葉遣い

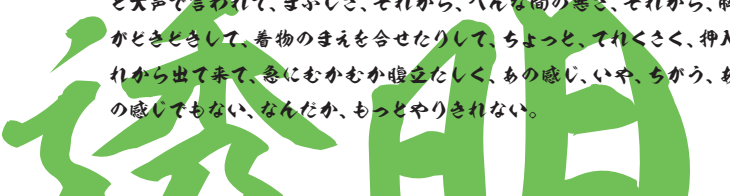
眠りに落ちるときは、
「はんもんだ。射か、うなぎか、
ぐいぐい釣手をひっぱるような、
なんだか重い、鉛みたいなのが、
糸でもって私の額を、ぐっとひいて、
私ごとりと糸をゆるめると、
また、ちよと糸をゆるめると、
すると、私は、はつと息を取り直す。
また、ぐっと引く。ちよとと眠る。
また、ちよと糸を放す。
そんなことを三度か、
四度くりかえして、それから、
はじめて、ぐうつと大きく引いて、
こんどは朝まで。



もう、もう、なんでも、どうでも、よくなって来る。ついに、ええっ！
と、やけくそになって、味でも体裁でも、めちゃめちゃに、
投げとばして、ばたばたやっしてしまっって、じつに不機嫌な顔して、お客に差し出す。

シンテレラ

あさ、眼をさますとさきの気持は、面白い。かくれんぼのとき、押入れの
真つ暗い中に、じつと、しゃがんで隠れていて、突然、でこちゃんに、か
らっと襪をあげられ、白の光がどっと来て、でこちゃんに、「見つけた！」
と大声で言われて、まぶしさ、それから、へんな間の悪さ、それから、胸
がどきどきして、着物のまえを合せたりして、ちよと、それくさく、押入
れから出た糸を、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、いや、ちやう、あ
の感じでもない、なんだか、もってやりきれない。



文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わを

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

装飾式 装様

あさ、眼をさますときの気持は、面
白い。かくれんぼのとき、押入れ
の真っ暗い中に、じっと、しゃか
んで隠れていて、突然、てこちゃ
んに、からっと襷をあげられ、日
の光がとって来て、てこちゃんに、
「見つけた!」と大声で言われて、
まぶしき、それから、へんな間の悪
さ、それから、胸がときどきして、着
物のまえを合せたりして、ちよつ
と、てれくさく、押入れから出て来
て、急にむかむか腹立たしく、あ
の感じ、いや、ちがう、あの感じて
もない、なんだか、もつとやりきれない。

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思うほど活き活きしている。顔は、
他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係な
く、別個に自由に活きている。きょうは頬紅も、つけないのに、こ
んなに頬がはつと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。

可笑しい

眠りに落ちるとききの気持って、へんなものだ。特か、うなきか、くいくい釣糸をひっはるように、なんだか重い、鉛みたいな力か、糸もつて私の顔を、
くつと引いて、私かとうとう眠りかけると、また、ちよつと糸をゆるめる。すると、私は、はつと気を取り直す。また、くつと引く。とうとう眠る。
また、ちよつと糸を放す。そんなことを三度か、四度くりかえして、それから、はじめて、くうつと大きく引いて、こんどは朝まで。

薔薇の ワルツ

心の底まで透明に
なってしまって、
崇高なニヒル、
とてむいっただよんな
工合いになった。

ピンク色

夕靄は

文字で彩るつわばと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
ひひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わをををん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハセツヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヅヅ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

透明

哲学のつわばと
物子平

春

あき、眼をまよわしめる気持ち、面白い。
かみればほのぼの、押入れの裏ついでの中
に、じつと、（あかんで隠れていて、突然、
そこちやんに、からつと襦をあげられ、母
の老かどつと来て、そこちやんに、「見つ
けた!」と大音で言われて、まあ（さ、な
れから、へんな間の悪さ、なれから、胸か
どきどきして、着物のまきを合せたりして、
あまつと、それとさく、押入れから出て来
て、急にむかむか腹立たしく、あの感じ、
いや、あかう、あの感じでもない、なんだ
か、もつとやりきれない。

花の百合

鏡を覗くと、
私の顔は、
あや、
と思ふほど
（希さ（希さ（ている。
顔は、他人だ。
私自身の
悲（さや苦（さや、
そんな心持とは、
全然関係なく、
物個に自由に（希さ（ている。
さようは頼む、
つけないのに、
こんなに頼か
はつと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く老って、可愛い。

草原

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わゐをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

あさ、眼をさますときの気持は、面白い。かくれん
ほのせき、押入れの真っ暗い中に、じつと、じやか
んで隠れていて、突然、でこちゃんに、からっと襦
をあけられ、目の光がどつと来て、でこちゃんに、
「見つけた!」と大声で言われて、まぶしさ、それ
から、へんな間の悪さ、それから、胸がどきどきし
て、着物のまえを合せたりして、ちょっと、てれく
さく、押入れからあて来て、急にむかむか腹立た
しく、あの感じ、いや、ちがう、あの感じでもない、
なんだか、もつとやりきれない。

あたし、東京の、 どこに、いるか、ごぞんじですか?

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる
菼蓿草は、
牧場か湖水か。

豆の葉

眠りに落ちるとききの気持で、
へんなものを。胸が、うなずか、
ぐいぐい物手をひっぱるまじらに、
なんだか重い、鉛みたいな力が、
糸であつて私の顔を、くっついて、
私かどうしよう眠りかゆると、
また、ちよっと手をゆるめる。
すると、私は、はっせえを取り出す。
また、くっついてく。どうしよう眠る。
また、ちよっと手を控す。
そんなことを三度か。田舎くりかえりて、それから、
はじめで、くっついてまさく引いて、こんどは朝まで。



窮余

鏡を覗くと、
私の顔は、むや、
とさうほと
活き活きしている。
顔は、他人だ。
私自身の悲しさや
苦しさや、そんな心持とは、
全然関係なく、
別個に自由に活きている。
きょうは朝寝も、つけないのに、
こんなに顔がほつと赤くて、
それに、唇も小さく
赤く赤って、可愛い。

文字で移るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬねの
ひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
わををを
ん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハセツヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

薔薇のワルウ

鏡を覗くと、
私の顔は、おや、
と思ふほど
滯り滯りしている。
顔は、他人だ。
私自身の悲しきや
苦しみや、そんな心持は、
全然関係なく、
別個に自由に滯っている。
さよらは顔にも、つけないのに、
こんなに顔がほつち赤くて、
それに、唇も小さく
赤くあって、可愛い。

見

雲が

降る

心の底まで
透明になつてしまつて、
崇高なニセモノ、
とてもいつたよりのな
土合いになつた。

ア ン グ ラ フ

山形の生活、流車の中、浴衣、西瓜、川、蝉、風鈴。急に、これを
持って流車に乗りたくなつてしまふ。扇子をひらく感じつて、よい
もの。ほらほら骨がほじけていって、急にふわつと軽くなる。それ
よりも、あそんでいたら、お母さん帰っていらした。御機嫌がよい。

バサころ Basakoro

フォント
ワークス
昭和書体
筆文字
見本帖

文字で彩るコトバと想い

あいうえお
かきくけこ
さしすせそ
たちつてと
なにぬの
はひふへほ
まみむめも
やゆよ
らりるれろ
ゐるえをん

アイウエオ
カキクケコ
サシスセソ
タチツテト
ナニヌネノ
ハヒフヘホ
マミムメモ
ヤユヨ
ラリルレロ
ワヰヱヲ
ン

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789

花の百合

御印

鳥の羽の
扇子のように
お皿に敷かれて、
緑したたる
菠薐草は、
牧場が湖水か。

栗色 緑

あや、眼をまますますのまはは、面白。
かかれんほのとき、押入れの真の暗い中に、
じつと、いやがで隠れていて、突然
でいびきたた、びびらうと寝てあけられ
日の光がでびと来て、でいびきたた、
「見つけたー」と大空を言われて、まじまじ
それから、へた空間の思ふ、それから、胸がどまどまどして、
着物のまきまきせたりして、まじまじ、これへへへ、
押入れから出て来て、急にあかあか腹立たしく、
あの感じ、いや、すがら、あの感じでもない、
なんだか、もつたりきれない。

馬油 シンデレラ

馬油

鏡を覗くと、私の顔は、おや、と思うほど活き活きしている。顔は、他人だ。私自身の悲しさや苦しさを、そんな心持とは、全然関係なく、別個に自由に活きている。きょうは頬紅も、つけないのに、こんなに頬がぱっと赤くて、それに、唇も小さく赤く光って、可愛い。